

SCHOOL DATA

〒285-0045 佐倉市白銀1-4
 TEL.043-483-4611 FAX.043-483-4614
 ■児童数/283人 ■教職員数/20人 ■周辺環境/住宅地

(平成20年5月1日現在)

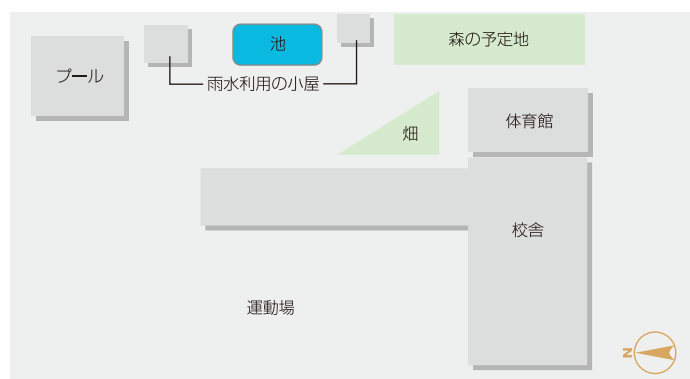


ビオトープの概要

- 場所/学校敷地内
- 面積/約27.5㎡
- 設置者/学校
- 設置した年/2007年
- 直近の改修年/2008年
- 主な管理者/教職員
飼育栽培委員会児童
地域ボランティア

<コンセプト>

ビオトープは、今年度、雨水を導入した池(約27.5㎡)が主であるが、秋から周囲の草地を利用して森(約180㎡)をつくっていく計画である。ともすると、自然との触れ合いが乏しい傾向にある児童を、ビオトープづくりを通して、自然を身近なものと感じ、大切にしようとするように変容させていきたい。そのために、生物相互の関係や食物連鎖などがわかるように計画を練り、ビオトープづくりに反映させたい。また、学習でも、多様な生物の生態や相互のつながりについての認識を深めるなど、学びの質を高めていきたい。



生息している生物

<池>
 植物:ヒメガマ、ハッカ、オグルマ、セリ、イヌガラシ、ノビル等
 動物:アメンボ、ミズスマシ、アメリカザリガニ、ニホンアマガエル、クモ等

今後生息させたい生物

<池>
 多様性と生物間関係、食物連鎖が見られるような、植物、昆虫、両生類を栽培、生息させていきたい。また、水辺で見られる、トンボ類、ミズカマキリ、貝類なども生息させていきたい。いずれにしても、プランクトンをはじめとして、餌となる動植物を増やし、多様な生物が生息するようにしていきたい。

<森>

今年度着手し、数年かけて森を育成していきたい。秋にコナラ、クヌギ、クリなどの落葉樹の種や幼木を集め、育成する。森の形成の過程で、順次下草低木等も植えるようにする。その結果昆虫や小動物が住みやすい環境ができ、種類が増えていくものと考えている。



生き物観察会



生き物観察会

ビオトープの活用方法

- 4年生は理科の観察を兼ねて、少し遠くの水田に出かけ、川や湿地の植物を採集し、ビオトープに植えている。
- 5年生は池の一部に稲を植え、観察に利用している。
- 1~6年の希望者を対象に夏休みに、サマースクールを開催し、ビオトープ観察会、ザリガニつり大会を行っている。観察会では、水の中の生き物を中心に小さい虫やプランクトンなどを調べた。両方の企画とも保護者、地域住民の多数の協力があった。
- 併設されている学童クラブでは、毎日ビオトープで虫などと遊ぶ活動をしている。

ビオトープの効果

- 児童への効果
 - 自然と触れ合える場所ができたことにより、自然に興味や関心を持つ児童が徐々に増えた。
 - 地域にたいする愛着や関心が深まった。
- 教職員への効果
 - 理科や生活科の学習指導がしやすくなり、学びの質の向上につながった。
- 保護者、地域住民への効果
 - ビオトープづくりや観察会を通して、改めて自然や、よりよいビオトープづくりについて関心を持つようになった。

保護者、地域との連携

- 保護者**
 ビオトープ観察会の実施を行ってもらっている。
- 自治会、町会**
 学校環境整備委員会のメンバーを中心にビオトープの造成を行ってもらっている。
- その他**
 敬愛大学環境情報研究所特別研究員の高橋氏の協力を得て、雨水利用の水供給設備を作製してもらっている。

整備・活用・管理等の課題

- 樹木を今後育てていくが、雑草も生い茂るので、幼木時の管理をしっかりと考え実行していかなければならない。
- 池とその周囲に植えた植物が雑草に負けられないよう手入れをしっかりとしなければならない。
- ビオトープの学習指導への活用について、多くの学年で実施できるように計画づくりを進めていく必要がある。

今後の展望

順次整備を進め、今後、池と森が揃うことにより、今まで以上に、児童の活動の幅が広がり、自然認識や関心が深まるものと考えている。また、整備や観察会の支援を通して保護者、地域住民の関心も高まっていくものと思う。

整備を担当した教員等の感想

- 教員
 ビオトープづくりは大変な作業であったが、しだいに生き物が増え、児童が活用したりする姿を見るのは、うれしいことである。
- 地域住民
 植物を植えたり、ザリガニつりなどを行ってくれて、子どもたちが大変喜んでくれてよかった。今後、規模を拡大してさらに充実させていくとよいと思う。

